



令和4（2022）年度からの  
人文社会学科の

履修コース再編について

令和2（2020）年度時点での  
高校2年生や1年生に関係のある変更です

# 履修コース再編の概要

- 奈良女子大学文学部の人文社会科学科には、現在、5つの履修コース（古代文化学・歴史学・社会情報学・地域環境学・文化メディア学）がありますが、**令和4年（2022）度入学者からは、歴史学コース・地理学コース・社会学コースに再編した、全3コースからなる履修コースとする予定です。**

## 履修コース再編の趣旨

- 人文社会科学における履修コースの、3コース体制（歴史学コース・地理学コース・社会学コース）への再編により、学科としての学際的な学びの機会を従来どおり維持したうえで、個々の学びと学問分野との関連をいっそう明確にし、より体系的で専門性の高い学修や卒業研究へとつなげます。また、自らが何を学んでいるのかを一層明瞭とすることで、学生ひとりひとりの対外的な発信力や自己アピール力の強化をはかります。

次のスライドからは

新しくできる 3 つの履修コースの概要と

なら学プロジェクトについて紹介しています。

# 歴史学コース

・温故知新という言葉があります。未来を知るためには過去を知る必要があります。現在、環境問題の深刻化や世界的な格差の広がりといった事象が生じ、かつてほど鮮明に人類の未来が見通せなくなってきました。過去を知ることの重要性は、いやが上にも増してきました。歴史学は、その意味で今最も求められている学問です。

・歴史学コースでは、古代学（考古学、日本美術史などを含む）、日本史、東洋史、西洋史を学び、多様な時代・地域に視野を広げ、国際的文化交流、政治、宗教、思想、文化など、さまざまなテーマ・領域を扱います。少人数でのゼミや専門書・外国語文献・史料（古文書・古記録・図像・彫刻・出土遺物）の解読によって基礎力を養い、柔軟に考え、感性を磨き、それを自由なテーマによる卒業論文作成へ発展させます。

# 地理学コース

- ・地理学コースでは、人文地理学、自然地理学、地誌学、地域研究を学ぶことにより、グローバルな視点やミクロな視点から人間と環境・地域との関係を探究します。具体的には、地域の自然・社会・経済・文化、都市の成り立ち、まちづくり・地域づくり、ツーリズム、ジェンダー、景観、環境問題、自然災害など、さまざまなテーマ・領域を扱います。
- ・本コースでは、文献講読、地図・空中写真の判読、統計分析やGIS（地理情報システム）などを授業に組み込み、地理学の基礎的知識や能力を培います。それらを生かして、観測・観察や聞き取りなどを用いた野外調査を実施し、調査研究の実践的能力を高める教育を行います。

# 社会学コース

・私たちの生きる社会は、人々のつながり（関係）とそのつながりを基礎とした仕組み（制度・構造）と、それらを持続あるいは変化させる媒体（文化・コミュニケーション）から成り立っています。

・社会学コースでは、これら社会を構成する要素を基本的視点に置きつつ、現代社会で生じている諸現象を読み解くことを目的としています。具体的には、グローバル化と国際社会、ジェンダーと家族、都市と地域、格差と不平等、組織・ネットワーク・コミュニティ、文化とメディアなどのさまざまなテーマ・領域を扱います。社会現象の解明に必要とされる考え方・見方（理論）を学ぶとともに、現実で生じている実態を具体的に調べるための方法（アンケート調査、フィールドワーク、聞き取り調査、資料・メディア分析などの研究技法）もあわせて身につけます。

人文社会科学の履修コース再編についての説明は以上ですが、本学科では従前より、研究・教育の両面で、「**なら学プロジェクト**」を推進しています。

“歴史を有した地域である奈良の社会や文化の特性を現代的視点から読み解く”ことをめざす本プロジェクトにかかわる諸科目は、コース再編後も、引き続き展開・開講してまいります。